

会員おすすめの3冊

『居場所のちから：生きてるだけすご
いんだ』 西野博之著
教育史料出版会 1,680円

『みんな抱きしめたい：親子の「愛と再
生」の記録』 魚住絹代著
大和出版 1,575円

『いまだき中学生白書』 魚住絹代著
講談社 1,575円

~~~~~

## 子どもに寄り添う目線

子どもたちがこんなに悲鳴をあげているのに、  
どうして、教育基本法や少年法を変えようとする  
んだよう！ますます息苦しくなるだけじゃん！  
と、叫びたくなるような昨今ですが。子ども  
たちの現場で、子どもに目線を合わせて、ともに  
「生きる」ことを模索している2人の方の本を読  
みました。



『居場所のちから 生き  
てるだけすごいいんだ』は、  
当会会員でもある西野博之  
さんが綴った「NPO法人フ  
リースペースたまりば」の  
15年の歩み。特定の場所を  
持たずに、移動型でスタート  
した「居場所づくり」は、紆

余曲折を経ながら、2003年には、川崎市子ども  
夢パーク内に公設民営の「リースペースえん」  
をオープンさせています。

「たまりば」という、大人社会の価値観にから  
めとられないあり方にこだわり続け、会費ひとつ  
取っても試行錯誤を繰り返してきた大人たちの歩  
み。「すべては生きていくためのプロセス」「一緒  
にいるよ」というまなざしの中で、それぞれのパ  
ワーを全開させていく子どもたちの姿。いいな、  
いいな！と、元気が湧いてきます。

「居場所のスタッフ心得15か条」は、いずれ  
も長い経験から来る重みを感じさせますが、中  
でも、斉藤次郎さんが生み出したという「だ・も・

ど」の呪文は役に立ちそう。アリ地獄の底に沈み  
そうになったときは、「だ(だーってしょうがない  
じゃん)・も(もーうすんだこと)・ど(どーっち  
だっていいじゃん)」と唱えて肩の力を抜いてみる  
と、よさそうです。

『みんな抱きしめたい  
-親子の「愛と再生」の記  
録』は、以前学習会でもお話  
しいただいた、魚住絹代さん  
(女子少年院元法務教官、家  
庭教育サポーター)の著書。  
ボロボロに傷つき、「もうど



うでもいい」と自尊感情を持たずに、少年院にや  
ってくる少女たち。まるごとの自分を認めてもら  
うことに飢えている彼女たちにとって、親子関係  
の捉え直しや修復が大きな力になること、そして、  
深いまなざしで両者の間をつなぐ存在が重要であ  
ることを、この本のたくさんの事例は教えてくれ  
ます。

「今がどんなに苦しくても、あなたたちには『未  
来に向かう力』が必ずある。けっして自分をあきら  
められないで」「人は変わる力を持っている」自  
らも苦しかった子ども時代の経験を持つ魚住さん  
の「けっしてあきらめられない」まなざしに、勇気づ  
けられる思いがします。



ほぼ同時に出された『いま  
どき中学生白書』は、子  
どもたちと接する中で彼らの  
「メディア依存」に強い危機  
感を持った魚住さんが、大規  
模アンケートを取った結果を  
まとめたもの。「ゲーム族」

「メール族」「ネット族」の特徴が、著者が実際に  
接した子どもたちの姿とともに、浮き彫りにされ  
ています。「分類」「分析」のひとり歩きは危険で  
しょうが、現代の子どもたちの苦しさを捉える意  
味で、重要な手がかりを与えてくれます。